

雨の日にわかる

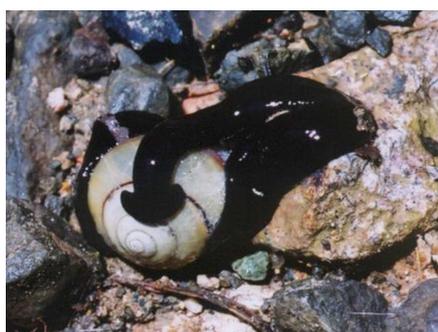
1. 黄色や黒の紐 (地図中①地点)

雨が降ると、晴天時には見ることの少ない動物が現れます。写真のような半円形の頭を持ち、ヒルのように細長く、移動した後はナメクジのように粘液が残るコウガイビルもその一員です。

コウガイビルは扁形動物に属し、口はあっても肛門のない下等な動物で、通常は落ち葉や石の下などに隠れています。這った跡を見つけてたどるのが探しやすいでしょう。



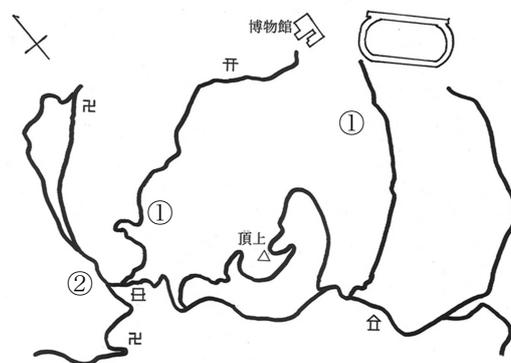
コウガイビル



カタツムリを捕食するコウガイビル

カタツムリやナメクジを長い体で取り囲み、口から消化液を分泌してカタツムリをドロドロの液状にし、吸収します。カタツムリの動きが鈍いといえ、けっして速いとはいえない動きのコウガイビルが捕食する動物であることは驚嘆に値します。

名前の由来は、日本髪（まげ）のまげにさす「筍（こうがい）」に形が似ていることからきています。ヒルと名前がついていますが、血を吸うヒルの仲間より下等なプラナリアなどと同じグループです。



樹冠を見上げる

2. 雨宿りするべき木は (地図中②地点)

傘を持たず、急な雨にあった時、木の下に雨宿りする場面があります。どのような木を選ぶのが最適でしょうか。

まず、樹下に入りやすい木。これは、樹冠が繁った木は光を下へ通しにくいいため、下草が少なくなっています。

樹上の光の何%が樹下に届くのか、照度を測定した平均値があります。葉の厚いツバキは間隔が大きいため、雨宿りには適していません。

ヒノキとシイはあまり差がありませんが、実際はヒノキの下の方が雨に濡れません。樹冠が葉で覆われると下側の葉は光不足でなくなり、表層の葉のみとなります。そのため、上面の葉のついた水滴が落ちると下で受け止めるものがありません。ヒノキは円錐形の樹形と葉の重なり方が瓦のようで、下枝が水滴を外側へ流してくれますが、シイは個々の葉の先端が下に曲がっており、そのまま水を落とします。雨の日に樹下の地面の濡れ方を見ておくことが必要です。



スダジイ



ヒノキ

樹種	透過率
ヒノキ	6.6%
シイ	7.3%
ツバキ	14.9%